

飛騨・世界生活文化センターに係る県・関係市村による検討会 議事要旨

1 日時等 令和8年3月24日（火）16:30～17:45、オンライン会議

2 出席者 高山市：平野総合政策部長、沼津総合政策課長
飛騨市：下通総合政策課長
下呂市：澤企画課長
白川村：古田観光振興課長
県：渡辺観光文化スポーツ部長、澤村次長（文化担当）
森飛騨県事務所長兼地域危機管理監、大口文化創造課長 他

3 議事要旨

（1）挨拶（県観光文化スポーツ部長）

- ・ 前回の検討会で、検討に至った経緯や施設利用状況を共有したうえで、県の基本的な考え方を示し、3つの検討事項「①飛騨センターに残すべき機能、②地元市村主導による行政利用の可能性、③代替施設の確保」を設定した。
この検討事項について、各市村に意見照会し、提出された意見に対する県の考え方を整理したので、ご議論をお願いしたい。
- ・ 検討に当たっては、具体的な数字（利用頻度等）を明示したので、感覚ではなく実態を踏まえたうえで、どうあるべきか議論したい。
- ・ 利用者対応としては、これまで、県においても民間を含めて代替施設を探してきた。本日、その候補を説明したいと思っている。市村におかれては、地元自治体として住民の声を聞き、引き続き、住民を代表する立場から意見をいただきたい。
- ・ また、サウンディングの状況についても共有する。

（2）飛騨センターの有効活用策の検討等について（説明：県文化創造課長）

ア 飛騨センターに残すべき機能について 資料1

- ・ 高山市は、「①コンベンションホール及び芸術堂、②県広域防災拠点としての機能を残すべき」との意見。
- ・ 県としては、下記のとおり考える。
 - ① コンベンションホール及び芸術堂について
 - ・ コンベンションホールにおける1,000人以上／日のイベントの開催実績は、R5年度は2件、R6年度は6件であり、飛騨高山ビッグアリーナ等の既存施設やサテライト会場との組み合わせ等の工夫で代替可能と考える。芸術堂は、毎月定期的に利用している団体はなく、近年の平均利用実績は7件／月であり、同様に、高山市民文化会館等の既存施設で代替可能と考える。
 - ② 県広域防災拠点としての機能
 - ・ 継続して使用できないか検討するが、仮に飛騨センターが使用できなくなった場合も、飛騨地域で指定している他の3施設や他地域の拠点施設で補完

できる。また、今後も条件に合致する施設があれば指定し、受援体制を強化していく。

- ・ 飛騨市は、「同等の機能を有する美術品等収蔵庫が近隣にないうえ、市単独で収蔵庫を整備することは非効率的であるため、引き続き利用したい」との意見。
- ・ 県でも当該収蔵庫に美術品を収蔵しており、今後は民間倉庫の活用を検討している。市村においても代替施設への移設の検討をお願いしたい。
- ・ 下呂市、白川村からは、意見なし。

イ 市村主導による行政利用について 資料1

- ・ 高山市は、「現在入居している大学連携センター以外での利用予定はなく、飛騨センターは地域にとって重要な施設ではあるものの単独での管理運営は困難」との意見。新聞報道等によると、市での活用を検討する余地もあるといった市長のコメントもあったが後ほどコメントをお願いする。
- ・ 飛騨市は、「相当の距離があり市主導の利用、管理は困難」との意見。
- ・ 下呂市及び白川村は、意見なし。

ウ 代替施設の確保に向けた協議について 資料1、別紙

- ・ 高山市からは、今回、特に検討はしていないとのことだが、以前、市の施設一覧の提供をいただいた。また、団体登録すれば利用料金が減免される制度があることも案内いただいた。
- ・ 飛騨市からは、飛騨市文化交流センターをはじめ6施設。
- ・ 下呂市からは、下呂交流会館。
- ・ 白川村からは、なし。
- ・ 県でも、民間施設等を含め代替施設の確保に努めており、その1つの候補が高山自動車短期大学。文化・スポーツ団体に利用可能な施設として文化記念講堂、教室、体育施設があり、料金が設定されている。
中でも、教室（第2棟）は音を気にせず利用できるようであるため、楽器演奏の練習場所としても候補となり得ると考えている。
- ・ 県では利用者相談窓口を設けているので、具体的なニーズを聞かせていただければ、同短期大学と具体的な調整をしていく。

エ その他のご意見等について 資料1

- ・ 高山市は、「県の事務所機能の集約も視野に入れてはどうか」との意見。
- ・ 県としては、飛騨地域のにぎわい創出、課題解決という観点で有効活用策を検討しており、サウンディング調査を実施しているところ。現在のところ、県の事務所機能の集約について具体的な計画はない。
- ・ 飛騨市は、「飛騨センターの有効活用検討は、目的や課題が明確でないと感じている。県全体の施設見直し方針や根拠を明確に示すとともに、廃止前提ではな

く、経費削減による存続の可能性など多角的な運営案を検討すべきであった。今後も飛騨センター運営検討を進めるにあたっては県民の不安を招かぬよう、利用者の意見を丁寧に汲み取っていただきたい。」との意見。

- ・ 県では、県有施設の総点検を実施しており、全庁的な見直しの検討を行っている。その中で、今年度末に指定管理期間の終了する施設について先行的に見直しを行った。他の県有施設に比べて維持管理費が大きい飛騨センターについては、飛騨地域のにぎわい創出や課題解決に資する有効活用策を検討することとした。今後も、利用の実績や県の財政負担等の客観的データ、代替施設をお示しするなどして積極的な情報提供と丁寧な対応に努めたい。
- ・ 白川村は、「人口減少の中で、文化系施設を集約化する意味で高山市民文化会館が稼働するまでは継続し、その後廃止してはどうか」との意見。
- ・ 県としては、飛騨センターの会議室等個別施設の年間利用者数が約 81,000 人、開館日 1 日当たり約 260 人であることを踏まえると、現状でも、近隣の既存施設で代替可能な範囲と考える。

オ 運営方針の見直しに係るスケジュールについて 資料 2

- ・ 令和 9 年度の運営について、令和 8 年 12 月には、県としての方針を決定したい。それに向けて、検討会は、今後、5 月、7 月、9 月、11 月と 4 回程度開催予定。サウンディングの申込期限が 6 月 26 日であるため、7 月の検討会でその状況を報告する。さらに 9 月の検討会では、8 月 12 日期限のサウンディングの提案についての報告を予定している。12 月の方針決定に向け、秋には方向性をまとめたい。

◆ 意見交換

【高山市】

- ・ 「残すべき機能」について、市としては「飛騨センターの施設規模や一定のニーズを踏まえて残してほしい」という意見であるが、県としては「代替施設もあり、利用も少ないので残す必要はない」と考えているのか。
- ・ そもそも全く同種の施設がある中で、「代替施設があるから、(残さなくても)いいだろう」と言われると、「県として必要ない」と考えているように見える。
- ・ 県としてはこの飛騨センターという施設の特徴をどのように評価しているのか。

【 県 】

- ・ 県の財政状況が良ければ、運営を継続しながら、より使っていただく方向で検討するのかもしれないが、財政状況が非常に厳しい中で、施設のあり方そのものもが問われている。
- ・ 利用実態を踏まえると、代替施設もある中で、多額の費用を負担してまで運営を継続していくのは適切であるのかと考えている。
- ・ このまま施設の運営を継続する必要があるのか、あるいは、ソフト事業で対応する方法もあるのではないかとというのが論点。

【高山市】

- ・ 県が、市民がセンターを拠点に文化活動していることを否定しているのではないと思うので、ソフト事業での代替案については前向きな議論であると捉えたい。
- ・ 財政上の理由については、理解できないわけではないが、利用者が納得したという状況ではないように見受けられる。現時点で、市として「もう不要な施設です」と言える段階ではない。要望書を出された方には県から丁寧に説明してもらいたい。市も議論の場には必要に応じて加わっていきたいと考える。
- ・ 「市村主導の行政利用」について、以前、市長のコメント（市が活用を検討する余地もある）が報道されたが、県から施設の譲渡を受けるとか、全体を借用するというのではなく、必要な時に、コンベンションホールや芸術堂を借りて利用するという趣旨であるようだ。

【 県 】

- ・ 県として、この検討会で3市1村のご意見も踏まえ、議論しながら、県としての方針を決定したいと考えており、具体的な数字を示しながら、代替可能性があるのかを見極めたい。代替可能であれば、県としては（県の財政状況を踏まえると）「必ずしも施設を維持する必要はないのでは」という整理になる。
- ・ 代替可能であるのに、それでも高山市として「飛騨センターを残してほしい」というご意見であるなら、市への移管や応分の負担について議論の対象となる可能性もある。
- ・ 近隣の施設で代替できず、残すべき機能があるということであれば、そのエビデンス（根拠）も併せてお示しいただく必要がある。

【高山市】

- ・ 県の考えについては一定の理解はできる。現状では、納得されていない利用者があり、飛騨センターでないと活動ができないという話になったときには、高山市が負担して一部をお借りしたいという話はゼロではない。
- ・ ほとんどの利用者は代替施設に移行されたと捉えているが、先般の要望書が提出されたところをみると、県の考えに納得されていない利用者があるのではないか。

【 県 】

- ・ 今回、感覚ではなく数字で状況を説明したところ、高山市から一定の理解をいただけたことは、大変重要でありがたい。
- ・ 利用者の方々は、理屈は理解いただいても、飛騨センターに愛着をお持ちのため「これまで使えたのに、なぜ使えなくなるのか」という思いは残るだろうし、この思いは大切であると考えており、どうあるべきかの結論を出すには、まだ一定の時間が必要だと考えている。
- ・ 一方で、全く利用していない方からは、このまま、飛騨センターの運営に税金を使って良いのかという意見もあり、賛否両論ある。高山市には、住民の代表として、市民の意見を聞いていただきたい。
- ・ 引き続き、本検討会の場以外でも特に高山市とは連携して進めていきたい。

【高山市】

- ・ 前回の検討会の際に「最適解を探りたい」という話があったが、その中で、利用者に丁寧に説明して理解いただく作業は必要だと考える。先般の要望書には、「利用者を含めた協議の場を設定して欲しい」とあったが、高山市にその役割は難しく、施設を運営する県から説明いただく必要があると考える。事前に共有できることは共有して、準備などは市もお手伝いはする。
- ・ 県は要望書を出された方とコミュニケーションをとっているのか。要望書に回答された際に、県から要望書を出された方とコミュニケーションをとるのが一番自然ではないか。

【 県 】

- ・ 市に「利用者を説得して欲しい」ということではなく、見直しの議論はすべて公開しているため、使われていない方も含めて、どのような思いを持っておられるのか意見を聞いていただきたい。そのうえで、地元の住民代表として市のお考えを聞きたい。
- ・ 県として、特定の人とだけ協議するのは適切ではないと考えている。県のカウンターパートは市村、特に（市民の利用が多い）高山市であると考えている。

【高山市】

- ・ 市として、要請書を提出された団体に対して検討会についてどう思われるかを聞くのは不自然ではないか。

【 県 】

- ・ 要請団体のみならず、利用していない住民に対しても意見を伺っていただきたいという考えである。

【高山市】

- ・ 「住民の代表である高山市」、「カウンターパート」という表現の真意が不明。県と一緒にあって、利用者に説明することを意図しているのか、県の出先という形で利用者と意見交換して欲しいという意図なのか。

【 県 】

- ・ 利用者の方も含めて、飛騨センターはどうあるべきか、データを見つつ、住民の意見集約をお願いしたいという意図である。県の方針等の説明をお願いしているわけではない。
- ・ 高山市は市民全体の代表。フラットな立場で意見集約していただきたい。そのうえでの市の意見は大変重いものであると考えている。

【飛騨市】

- ・ 利用者への丁寧な説明をお願いしたい。この点が最も重要と考える。

【下呂市】

- ・ 高山市や飛騨市の意見を尊重したい。

【白川村】

- ・ 人口減少に伴い利用者は減少するため、何らかの形で、施設の集約は必要である
と考える。

(3) 利用者対応について（説明：県文化創造課長）

- ・ 飛騨センターの見直しについて、県の考えを理解いただくため、見直しに至った
経緯等について、FAQ方式でまとめており、今後、県のホームページでの公開を
予定している。事前に市村へ内容確認を依頼するのでご協力をお願いします。

◆ 意見交換

【 県 】

- ・ 県としては、市村がカウンターパートであると考えている。市村を通じて意見を
聞きたい。高山市として「一部の反対している人が納得すれば、それで良い」とい
うことなのか。

【高山市】

- ・ 今回、この検討会の資料を市長に共有したところ、「一部の理解されていない方
への説明は必要であり、県にしっかり対応をお願いしたい」とのことだった。
- ・ 高山市が主体となって意見集約することは難しいかもしれない。

(4) サウンディング型市場調査の状況について

- ・ 参加申込期間が6月まであり、先例に倣って申込件数のみ公表する予定。参加申
し込み等あれば、地元市村には今後もこの場で情報共有する。

(5) 意見交換

- ・ 特になし。

【 県 】

- ・ 今後、本日の資料にお示しした「県の考え方」に対するご意見を、各市村に照会
予定である。
- ・ 飛騨センターの利用者も利用されない方も県民である。一部の利用者の意見だけ
を聞くのではなく、住民の代表である市村の意見を聞き、議論を重ねるため、この
検討会を開催している。今後は、県の考えについて、市村としてどのように考える
かを聞きたい。住民の意見を集約したうえで、意見を述べてもらいたい。

- この検討会の議論は県のホームページで全てオープンにする。利用者にも利用されない方にも同様に全てオープンにする。そのうえで、飛騨センターはどうあるべきかの最適解を探りたい。